



イスラエル・パレスチナ：エルサレムでのシナゴーク襲撃事件

2014年11月18日にエルサレムでシナゴークが襲撃された事件で、これまでにイスラエル人5名、襲撃犯2名が死亡するなどの被害が出た。この事件については、報道機関やインターネットの掲示板サイトでPFLP（パレスチナ解放人民戦線）の軍事部門である「殉教者アブー・アリー・ムスタファー部隊」が犯行声明を発表したとの情報が流れている。犯行声明とされる声明は、「殉教者アブー・アリー・ムスタファー部隊：エルサレムでの勇敢な作戦は占領者の犯罪に対する当然の反撃」と題し、要旨は以下の通りである。

* PFLPの軍事部門である我々殉教者アブー・アリー・ムスタファー部隊は、殉教者であるガッサーン・アブー・ジャマル、ウダイ・アブー・ジャマルの両名が実行した勇敢な作戦が占領者とその指導者、入植者グループによるパレスチナ人民とエルサレムに対する犯罪への当然の反撃であることを確認する。なお、ガッサーンとウダイの両名は、エルサレムのジャバル・ムカッビル地区の者である。

* ガッサーンとウダイは、西エルサレムのダイル・ヤーシーンにある「ハールヌーフ」学院のユダヤ教の学院に突入した。両名は、鉈、ナイフ、拳銃、そして抵抗の意志で武装していた。これにより、治安要員と高位のラビであるモシュ・タブラスキーを含む入植者4名が死亡、7名が負傷した。負傷者のうち4名は重篤であるとされている。そして、作戦実行者はシオニスト警察の銃弾により殉教した。

* 殉教者アブー・アリー・ムスタファー部隊は、我々の土地を汚す入植者と占領者の除去を目的とするあらゆる抵抗活動を祝福する。また、（抵抗活動の）発展と一体的抵抗に向けた努力の統合、占領者・入植者との対決強化を呼びかける。我々の土地にヤツラの居場所はない。

評価

エルサレムでは、既にアクサー・モスクに対するイスラエル側の措置をめぐり衝突が頻発しており、何らかの形で襲撃・爆破事件が発生することは十分予想されていた。その一方で、事件の「犯行声明」を発表したとされるのが世俗的な民族主義運動に基づく古参のパレスチナ抵抗運動団体のPFLPだったことに、現在のパレスチナを取り巻く地域・国際情勢が反映されている。すなわち、イスラエルの存在を十字軍・ユダヤによるイスラーム世界侵略の核心とみなすイスラーム過激派にとって、本来イスラエルやその権益を攻撃すること、パレスチナでの戦闘や作戦に関与することは重大な関心事であるにも拘らず、「イスラーム国」やアル=カーイダをはじめとするイスラーム過激派諸派が最近のエルサレム情勢に関与していない、できていないということである。

特に、中東における既存の政体や国境を超越した新たな「国家」であるはずの「イスラーム国」が、パレスチナにおけるイスラエルとの闘争を既存の政体や民族の枠内で営むパレスチナ諸派が担い続けている現状に全くといっていいほど関心を示していないことは奇異なこと

ある。イスラーム過激派やその支持層が広報活動を行うインターネット上の掲示板サイトなどでは、18日の事件だけでなく最近の阿克サー・モスクをめぐる対立についての関心や投稿が著しく低い状態が続いている。事態の重大さや現地での緊張に鑑みれば、今後イスラーム過激派の有力団体・活動家がこれに論評することも十分予想される。しかし、現時点でのパレスチナに対する関心の低さは、「イスラーム国」の関心事が身近な活動や権益の奪取にあることを如実に示している。「イスラーム国」のこのような態度は、彼らが活発に繰り広げる領域国家否定・イスラーム諸国の統一という広報活動と、実際の活動内容とが大きく乖離していることを象徴している。

(イスラーム過激派モニター班)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799